

福島県PTA連合会会報
第15号_S58.03.05



P.T.A. 会報

充実と成果に満足した一年

会長 菅野久俊

福島市黒岩字田部屋53-5
 福島県青少年会館内
 福島県PTA連合会
 発行人 菅野久俊
 印刷 泉孔印刷所
 福島市泉字熊野13-1
 電話 57-1071

早いもので、この一年間をふり返って見る時期を迎えました。やはり月日の流れの速さを痛感すること頻りですが、同時に前年から継続の課題である県P三十年の歩みの発刊をはじめ、会津若松研究大会、母親リーダーセミナーの開催等を中心に、五十七年度に予定しました諸活動をそれぞれ充実した状態で効果的に実践して頂いたという有り難い気持ちを、強く感ずる次第で、その御努力と御協力の跡に、心からの感謝を申し上げます。

さて、ここで主要な活動について、所感の一端を述べたいと存じますが、記念誌につきましても、当初予定しましたページ数を大きく超えて、然かも内容的にも見応えのあるものとして、発行できましたことは執筆を担当頂いた方々をはじめ、県P各都市連P事務局の力強い連携による処で、改めて御礼を申し上げます。

又、会津若松大会につきましては、会津若松連Pの皆さんの熱意溢るる開催体制の構成と、その適切な運営によって、正に県P一段の興隆と進展を指向する大会として、高揚頂いたこと誠に有り難いことでありました。その過程で、県大会を真に県P最重要の活動として捉えるならば、県P予算の中にもっとしっかりと算出した予算付けがあつて然るべきだとの強い指摘があり、今、更に強くその必要性、必然性を感

じておる処であります。母親リーダーセミナーについては、四ヶ所開催としたわけですが、率直にそうして良かったと考えております。単P活動の中に父親の参加をより多くする努力と共に、お母さんの出席が多い現実から、中核となるお母さん方のリーダー性の研修も又一段と大切なことだと考えております。

また、今年も安全互助の正しい御認識を、そして加入をお願い致します。最後に、情報提供となりますが、日P法人化が社団法人へと一歩前進の状態にあることを申し添えて置きます。

加入推進について

県連PTA安全互助会委員会

昭和五十八年度は、皆様方の御協力によりまして、加入率八十パーセントを目標に推進して行きたいと存じます。何卒、皆様の絶大なる加入推進をお願い申し上げます。

日Pからの父母向け資料活用について

- ◇資料注文の方法
1. 県連P事務局へ申込み。(所定の注文票)
 2. 申込期限三月二十日(日P二月末日となっております)
 3. 代金は一部二十円(但し送料は別)
 4. 資料は印刷業者から直接学校宛に発送する。
 5. 代金の納入については、後日連絡する。
 6. 資料発送は、三月中旬に完了する予定であるが、遅い申込みは、学校始業式までは努力したいとのこと。

日本PTA全国協議会から各単位PTA会長各位へ既に提供され、このことについて種々御協議がなされておられることと存じます。

この資料は、PTAの全国組織と役割、単位PTAの組織と活動、子ども・地域・学校の連携と子どもへの指導内容等、一目でわかるように編まされております。先日、

八巻君(瀬上小)ら特賞

子ども災害事故ポスター展

子どもの災害事故が、年々増加の傾向にあり県連Pとしては深く憂慮し事故防止に力を注いでいます。

このたび、本会主催、県教育委員会の後援を得て、第六回子どもの災害事故防止ポスター展を開催いたしましたところ、県下小中学校児童生徒徒から三百点を越す立派な作品が応募されました。

去る二月十六日、力丸毅先生(野田中学校長)、佐藤 恵先生(鳥川小教頭)に審査いただき次のように入賞者が決定しました。

- ◇特賞
 - 八巻政教(福島・瀬上小・四年) 佐々木義智(若松・永和小・五年)
 - 山口 剛(北会津・猪苗代小・六年)
- ◇金賞
 - たかはしかずや(若松・永和小・一年) 浅野みほ(福島・瀬上小・二年)
 - 本田 浩(福島・瀬上小・三年) 阿部季美江(福島・瀬上小・四年)
 - 嶋原恵子(福島・瀬上小・五年) 村田紀夫(福島・瀬上小・六年)

◇銀賞

- ほんまあかね(福島・瀬上小・一年) 大竹広之(若松・永和小・二年)
- 高坂昌代(若松・一箕小・三年) 高橋太一(福島・瀬上小・四年)
- 半沢順子(福島・瀬上小・五年) 諏訪拓也(福島・瀬上小・六年)

◇銅賞

- 芳賀定道(いわき・貝泊小・一年) 長谷川妙子(福島・瀬上小・二年)
- 斎藤裕子(福島・瀬上小・二年) 小山修司(福島・瀬上小・三年)
- 菅井洋美(福島・瀬上小・五年) 佐藤厚子(若松・永和小・五年)
- 岩田真由美(若松・永和小・五年) 鈴木史裕(福島・瀬上小・六年)
- 宮下涼子(石川・石川小・六年) 山田桂子(石川・石川小・六年)
- 西館健(東白川・塙小・六年) 長塚修一(いわき・平二小・六年)

- 松・永和小・二年) 菅山由佳(若松・永和小・二年)
- 古市真弓(東白川・塙小・三年) 根本君(東白川・塙小・三年)
- 鈴木直美(いわき・貝泊小・三年) 篠田善勝(いわき・貝泊小・三年)
- 猪苧邦彦(相馬・磯部小・三年) 畑中佐紀子(相馬・磯部小・四年)
- 西丸由美子(いわき・小名浜西小・四年) 阿部則子(福島・鳥川小・五年)
- 加藤裕子(福島・鳥川小・五年) 土屋英男(郡山・安子島小・五年)
- 本名幸雄(若松・一箕小・五年) 知々田由紀(若松・一箕小・五年)
- 高橋幸造(いわき・平六小・五年) 藤田寿一(福島・四小・六年)
- 半沢峰雄(福島・鳥川小・六年) 坪井誠一(郡山・大島小・六年)
- 鈴木木寛志(北会津・猪苗代小・六年) 新井美紀(いわき・永崎小・六年)
- 湯山敏絵(いわき・平二小・六年) 三星奈津(いわき・平二小・六年)
- 吉田早苗(いわき・郷ヶ丘小・六年)

◇金賞

- 遠藤美智夫(石川・小平中・一年) 中沢万里子(若松・若松四中・一年)
- 中原ひとみ(いわき・平一中・三年)

◇銅賞

- 藤間康司(若松・若松四中・一年) 阿部久二(石川・小平中・一年)
- 襲田 渉(いわき・平一中・三年)

◇佳作

- 遠藤達也(北会津・北会津中・一年) 齋藤千恵(同・一年)
- 宗像学(同・二年) 山口純子(同・二年)
- 鹿目知賀子(同・二年) 岩淵美奈子(同・三年)
- 前田文(いわき・平一中・三年)

さあ、小学一年生

新しい会員のために

四月六日は県下一斉に小学校・中学校・養護学校の入学式です。

特に今度のはじめてお子さんを小学校・養護学校に入学させるご両親には喜びひとしおのことと存じます。

入学を目前に毎日心の準備、体の準備に追われているのではないでしようか。

そこで、入学前にこれだけはぜひ身につけさせておきたい事からをいくつかあげてみますので参考にしてください。

※名前を呼ばれたら大きい声で「ハイ」と返事ができますか。

※靴を左右まちがえずにはくことができますか。

※服や下着をひとりできちんと着ることができま

すか。

※朝起きたらすぐに顔を洗い「お早よう」のあいさつができますか。

※食事はひとりでき、こぼさないでできますか。

※鼻汁はひとりできめま

すか。

※横断歩道の標識や借号の見方を正しく知っていますか。



※遊んだ後は、きちんとしまつができますか。

※近所の家や近くの店ま

でひとり用がたせま

※夜はひとりで寝ることができま

以上あげた十項目は学校という共同生活の場になじむための基礎的・本

本的な事ばかりです。今までも保育所や幼稚園である程度

の体験してはいますので、子どもは親が心配する程

の抵抗もなく楽しい学校生活に短い月日で馴れる

よう

始業式後は、「学校は楽しいところだ」と感じ

とれるように親は心のさ

さえとなつてやること

大切

朝は必ず笑顔で送れる

よう心がけてそれを実行

に移して下さい。

暖かな日ざし、桜の花

に祝福されたかわい

い一年生のため社会全体で

見守ってやりたいものです。

心の豊かな子ども

の成長をみながら願

いながら励ましてやりま

しょう。

△北から南から▽

PTA活動の紹介

大きくしよう「人の輪」を

福島市立渡利小学校PTA

渡利小学校のある渡利地区は、福島市の旧市街より阿武隈川を隔てて南東にあり、南と東は阿武隈山系の低い丘陵地帯に囲まれた静かな住宅地です。しかし、なお一步奥に入れば、かつての農村地帯の面影を色濃くとどめ、自然にも十分恵まれて、子どもたちの成育の場としては申し分のない環境にあります。住民はサラリーマンが多く、一般に他の地区にくらべて民度が高いと言われ、子どもたちものびのびと育っております。近來どこも非行の低年齢化の傾向が顕著で、特に中学校では校内暴力など、大きな社会問題となつていますが、渡利地区では小・中学校ともこうした問題に悩まされることもほとんどなく、また子弟の教育

に熱意を持つている家庭が多いようです。必然的にPTAの活動も盛んで、「会員の創意で動くPTA」をスローガンに、活発な動きが見られます。それだけに、会に寄せられる期待も要望も多様であり、それらを一一つ検討してゆくのは並大抵のことではないのですが、「子どもたちの幸せを願う」という一点で共通の基盤に立てると信じて、先生方、役員ともども懸命に努力をしております。さて、渡利小学校は児童数約千二百名、三十学級の大所帯で、PTA会員数は約八百六十名。会員の約三割が役員となつております。PTAの活動は主としてタテ割りの学年・組織とヨコ割りの学年・学級PTAを基盤として

おり、その活動も多様です。そこで、まず各部の組織と主な活動について記します。

※本部：活動方針、予算編成、本部役員選考委員会の編成、各部及び各学年・学級PTA活動の調整、講演会の開催など。

※環境部：下水清掃・ガラス拭き奉仕作業。

※環境部：校外補導、地区子ども会の指導、地区内危険か所の点検、廃品回収への協力、夏休みプール当番割当表の作成など。

※補導部：校外補導、地区子ども会の指導、地区内危険か所の点検、廃品回収への協力、夏休みプール当番割当表の作成など。

※厚生部：学年対抗ソフト・バレーボール大会、市連ソフト・バレーボール大会参加、レクリエーション大会、運動会当日の売店開設など。

※環境部：下水清掃・ガラス拭き奉仕作業。

※補導部：校外補導、地区子ども会の指導、地区内危険か所の点検、廃品回収への協力、夏休みプール当番割当表の作成など。



＜整備された理科園＞

※教養部：PTA文庫の貸出(週一回) 県立図書館からの図書借入(年二回)、図書購入、読書会(月一回) コーラス(月二回) など。

※広報部：会報「和多里」の発行(年二回) 短信「あすなろ」の発行(年三回)

※広報部：会報「和多里」の発行(年二回) 短信「あすなろ」の発行(年三回)

とりわけ、昭和五十年校舎の老朽化と児童数の増加にともない、増改築工事を開始する段階から諸活動も活発化し、増改築後の教育環境整備に加えて、理科教育研究指定校として、昭和五十七年の全国小学校理科教育研究会福島大会会場の指定を受けてからは、先生方はもとより、PTAもその受け入れ準備に力を入れ、幅広い活動を行ってまいりました。何よりも環境整備の資金不足を補うため、会費から

積立のほか、廃品回収・バザー・ベルマーク等集めの三つの特別委員会を設け、運動会には売店を開設して全会員の理解と協力のもとに大きな成果を挙げることができました。その収益金により校舎の落成と同時に、理科園の完成をみ、昭和五十七年十月七日の全小理福島大会には全国の先生方に見ていただくことができました。また大会当日は、役員七十名が受付・接待などにあたり、大会の裏方としてお手伝いさせていただき、大会を大過なく終了させることができましたことも、大きな喜びの一つでした。

しかし、校舎の増改築や理科の全国大会の受入れ準備に追われてきたここ数年、努力はしながらもPTA活動の基盤である学年・学級PTA活動が低迷していることは否定できないところで、こうした活動を再度活性化することがこれからの大きな課題と思われまます。さしいわい、先生方からも良い指導があつて、来年度は年度当初に学年ごとの話し合いを十分に行きとりに行くとともに、PTA活動の資源は、何といつても「人の和」でしょう。この「人の和」の拡がるところに子どもたちを健全に育てる基盤が築かれてゆくものと思ひます。長期にわたる積極的な協力体制の中で、私たち渡利小学校PTAが子どもたちの幸せのために手をつなぎ、作り上

げた「人の輪」を、今後「人の和」に広がってゆさらにも強く大きくしてゆきたいものです。そしてそれが日に日に大きな、

よりよい環境をめざして

白河市立五箇小学校PTA

一、地域の様子

我が校は白河旧市内の東部に位置し米産を主とした純農村地帯である。かつてまだ白河市に合併されないころは西白河郡五箇村といつて米を主産物としたので西白河郡の穀倉地帯と言われ、村財政もかなり裕福であり、又、教育に対して非常に関心を払い教育村ともいわれた地域である。昭和三十年、白河市に合併したがまだまだ旧村意識があり、五箇の誇りというもの地帯社会の人々ももっているように感じられる。したがって、現在も教育に寄せる期待は大きく、何事も学校中心に行事がくまれるよう、学校当局としては、そのような伝統を維持発展するということにはかなり意を払っている。しかし、時勢の波は本地域にもひしひしと押し寄せており現在は農業は年老いた人

々に任せ、殆どの家庭が勤めに出、農業は片手間というような状況である。例にもれず、若夫婦は二人で何処かに勤めに出て現金収入をはかっている。ようである。この地域からは、かつて、県川柳界をリードした大谷五花村等も出ているし、学校の近くには借宿廃寺跡等もあり、文化の香りも高い地域である。

二、PTA活動

さて、そんな様子のが校PTAの活動はどうであるかという点、他校とそんなに違った活動をしている訳ではなく、極く極く平凡に、地味に活動を続けている。その主なものを物的な面と精神的な面とに分けて述べてみると、大凡次のようである。

○物的な面として
まず、環境整備についての援助が大きく浮上し

てくる。本校では、花いっぱい運動の一環として一人一鉢運動や草花の栽培などが盛んにすすめられていた。勿論、児童も活動するが、児童だけではとても間に合わず、どうしてもPTAが手を借すような状況になることは仕方がない事だと考えられる。施設、花壇の耕地等児童ではなかなか手のつけられない部分を担当する。その他年間一、二回の全員奉仕作業等、この学校でも実施していることをやっている。また、年に一回、廃品回収を実施し、地域社会の環境浄化に役立てたり、益金は教材設備等の充実に資している。更に、今年度は一月末日の日曜日に、会員相互の親睦と対話を深めるというよう

なめあてで、バザーを実施した。この運営についてはまだ考えねばならない面もあるように感じられた。○精神的な面として
強いて挙げれば、広報活動の充実、教育懇談会教育講演会の実施等である。以前は本PTAは会報の発行はしなかったのであるが、五十六年度より広報を発行することにになり、今年度で第六号まで出している。これは、どの学校でも出してい

る体裁のものであるが、今まで出していなかつたものを出したせいにか反響は大きいものがあり、投稿等も比較的多く寄せられた。授業参観後、教育懇談会や教育講演会を実施したりするのであるが、出席の割合は毎回八十パーセント以上であり、関心の高さを示していると考えられる。そのほか特筆したいのは五十六年度に新しい屋体が建築されたが、その内部設備については地域全体が自主的に発的に募金活動をなし、一切を完備したことは本地域がいかに教育に寄せる期待が大きいかを示しているのではないかと考えられる。学校当局もこの期待に応えようと懸命の努力をしている状態である。

会等、それぞれアイデアを生かし、相互の対話を深めるような作用をしていく。

三、今後の課題

以上、述べてきたが問題がないわけではなく、現在、社会が抱えている社会環境の浄化、家庭生活の健全化等々の課題は本校にも例外なく押しつぶさてくる。勿論、純農村であるので、甚だしく社会環境が汚染されていくというような状態ではないが、物理的にも精神的にも社会環境が浄化されるよう絶えず何かの作用を働きかけねばならないと考える。次に、家

庭の健全化であるが、児童を極端に過保護に扱ったり、また、放任の家庭なども全くない訳ではない。これら家庭の健全化をPTAという組織を通して働きかけ、更に健全ならぬと考える。そのためには、部落委員やその他の行政機関の助力等も得なければならぬと思われる。

話し合うPTA 深めよう連帯感

いわき市立泉中学校PTA

いわき市立泉中学校PTAでは、地域の自然的社会的、経済的諸条件の特殊性に即し、未来をひらく豊かな教育による人づくりをめざして、近代社会の成員として心身ともに健康で、たくましい実践力に満ちた生徒の育成にとめております。

本年度のPTAは、厚生部専門委員会、教養部専門委員会、施設部専門委員会、補助部専門委員会の四つの部会に分かれています。事業計画は、各専門委員長の立案により活発に実質的活動を進めており、三人のPTA副会長が、それぞれの委員会の補佐役を務め、良きアドバイザーになっていく。厚生部会は、体育祭売



応援歌の発表会

店の協力、バザーの開催、方部連Pの競技大会参加の準備協力など。

教養部会は、研修旅行の実施、教育講演会開催PTA新聞の発行、方部連Pの教育懇談会への参加など。

施設部会は、父兄・生徒・先生との協力による春秋の清掃奉仕作業、又本年度から、「いわき市全体の一クリン作戦」、町をきれいにしよう!!運動に参加、学校周辺、通路の整備に、PTA全員で参加している。

補導部会は、非行の問題を、大きなテーマとして取りあげ、夏休み、冬休みの生徒の行動範囲に先生とチームを組み、指導に当たっている。

又、PTAでは、泉小学校、渡辺小学校の二校の生徒が泉中学校に入学する関係上、各校当番による年三回の、三校連絡

の先生、各校のPTA代表者を囲んで会議を開き非行問題、暴力問題、交通事故防止問題、地域の種々の問題について真剣に話し合っております。

今年度はスポーツ面の活躍もめざましく、方部連Pの球技大会でソフトボール優勝、学校では、剣道の東北大会出場、女子のハンドボール部が、東北大会で優勝、全国大会へ初出場、石川県金沢で開かれた全国大会に、東北地方代表として、りっぱに戦ってきました。その全国大会への出場の援助を、PTA会員全員が基金づくりに努力、その団結力は大きいものであった。

そして、その全国大会の出場を機会に生徒会が中心となり、泉中学校の応援歌作りに取り組み、詞は生徒から募集、三年生の春日茂君の作品が選ばれ、この詞は、同校の高野先生の実父、高野六七八さんが補作、さらに見事なものとなった。

一方作曲はPTA会長吉田栄重さんの同級生でNHK仙台放送合唱団の指揮者、宮城教育大学講師などを務める、岡崎光治先生が担当し、ふるさとのために、と作曲した。



活躍するハンドボール部

発表会は、二月四日、県合奏大会で銀賞を受賞したブラスバンド部によって披露され岡崎先生自ら指揮をとり、全校生徒PTA会員の拍手を浴びました。

一、若き希望の
沸きたつところ
泉の丘に
白雲高し
愛の団結
みなぎる闘志
いざたかおう
はつらつと
日頃鍛えし
技光る
フリーフリーフリー
泉
泉中学校
熱と力の
燃えたつところ
太平洋の
海鳴りけわし
鉄の団結
みなぎる闘志
いざたかおう
堂々と

日頃鍛えし
肉躍る
フリーフリーフリー
泉
泉中学校

国、昭和五十八年度予算の編成にあたり、国の財政難を理由として、教科書無償給与制度を段階的に廃止するとか、補助金等合理化項目の一つとして廃止あるいは、対象の限定を検討するとかの動きがあり、本年度は、いよいよ将来にわたってこの制度の存廃を決する天王山を迎えており、予断を許さない状況にありました。

県連Pといたしまして、も日Pからの要請もあり、去る十二月初旬、会長・菅谷久俊、副会長・小林正一・太田豊彦、総務委員長・深谷壮夫、副委員長・大川原実、外に郡市連P役員の各位により、

と会員相互の親睦を深め学校を良く知る努力をすべきだと思えます。親と学校とで責任のなすりあいをするのではなく、ぜひ親も子も心を開いて話し合い、相談できる先生や良い学校環境をつくること、これからのPTAの大きな役割であると考えます。

以上本年度のPTAの活動の概況を紹介しましたが、教育は学校に依存するのでなく、一人でも多くの父兄がPTAに積極的に参加し、意識高揚

教科書無償給与制度
存続について陳情

事務局長 永井 七郎

既に御承知のとおり、五十八年度は、厳しい財政難にもかかわらず、漸く存続されることになりましたが、なおも予断を許さぬ状況にあることは、間違いのないようです。

◇陳情をして思う
陳情の折、各議員の方々が異口同音に申されることは、次のとおりです。
1. 教員・PTAは、義務教育における教科書無償給与制度の趣旨・必要性をわかっていないのではないかと、また、知っているても学童に話をしてい

本県出身国会議員(十名)の事務所・家庭を訪問面談いたし、陳情いたしました。

各小・中学校では、来年度のPTA安全互助会御加入について、役員会等で推進されておられることと存じますが、事務局から配布された「加入のすすめ」「事務取扱の要領」等をよく御講読されて、四月一日から補償資格を得られるよう準備方お願い申し上げます。

「事務連絡先」
〒960 福島市黒岩字田部屋
県青少年会館内互助会係
電話 五三一五
〇二四五一四五一五九八二

昭和三十八年度PTA安全互助会への早い御加入準備を!!

事務局より
陳情の折少なからず耳痛い話であった。今後よく考慮し、趣旨等の徹底を図らねばならぬと思った。

ないのではないかと。
2. 無償制度が確立されて二十年になるが、次第に学童の教科書の取扱いが粗雑になり大切にされていないようである。
3. 制度の趣旨を十分に徹底させるために、入学式・始業式等において、校長はじめ、先生方が適切に指導する必要がある。これらの事について、